

川と人

Vol.28
2006



サワギキョウ(8月頃)

雨竜沼湿原 花の暦

- 6月 ミズバショウ ショウジョウバカマ エゾノリュウキンカ チングルマ
- 7月 エゾカンゾウ ヒオウギアヤメ ハクサンチドリ ワタスゲ
- 8月 タチギボウシ オゼコウホネ エゾノヒツジグサ ミヤマアキノキリンソウ
- 9月 エゾオヤマリンドウ

※年によって若干異なります。

特集
まちと人が輝くために
水源地域ビジョンの実践

特集

まちと人が輝くために 水源地域ビジョンの実践

“21世紀は水の時代”と言われ、世界的な水不足が叫ばれています。

私達生き物は、水の循環の中に生きています。

生命の水を遡っていくと、緑はどんどん深さを増し、たつぷりと水を湛えたダム湖のある水源地に辿りつきます。

現在、水源地では住民が中心になって、森と水を守り育て、“まちの元気”を発信しています。

「水源地域ビジョン」は、ダム湖の豊かな環境と地域の歴史や文化を活かして、

住民を主役に“元気な水源地”をつくっていきこうというもので、

現在、全国99のダムが取り組んでいます。

水の大切さを知り、輝くまちと人々に出逢うため、水源地へ出かけませんか…

《水源地域ビジョンとは》

ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的として、ダム水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する水源地域活性化のための行動計画です。(国土交通省により平成13年度から推進)

《水源地域ビジョン策定・推進の流れ》

- 1 対象ダム(国土交通省所管の直轄ダム・水資源機構ダム)
- 2 水源地域の住民や市民団体、自治体、関係行政機関等により「水源地域ビジョン検討委員会等」を開催
- 3 意見をもとに、テーマや目標、行動計画の取りまとめ。プレ活動等実施
- 4 国や自治体首長に「水源地域ビジョン提言書」手交
- 5 「水源地域ビジョン推進のための協議会」設立～行動計画の推進

国土交通省ホームページ内「水源地域ビジョン」<http://www.mlit.go.jp/river/kankyousuigen/>

CONTENTS

特集 まちと人が輝くために 水源地域ビジョンの実践

- 水源地域ビジョンとは 2
- 石狩川流域水源地域ビジョン策定対象ダム 3
- 金山ダム 4
- 滝里ダム・漁川ダム 5
- 大雪ダム・豊平峡ダム・定山溪ダム・桂沢ダム・忠別ダム 6



世界河紀行 7・8
サハリンの人と川
在ユジノサハリンスク日本国総領事館
宝住 誓司氏

石狩川の歴史 9・10
岩見沢市、北村、栗沢町合併 それぞれの歴史と文化を生かして

流域の現在 11
【雨竜町】ラムサール条約登録・雨竜沼湿原のこれから

川のイベント 12
2006川と人カレンダー

北海道開発局
河川整備基本方針、河川整備計画の策定状況について... 13・14

北海道開発局 石狩川開発建設部
幾春別川新水路の完成 15・16

北海道開発局 旭川開発建設部
あさひばし子どもの水辺協議会と
2006永山新川エコホテル&冬まつり 17

札幌市
河川美化活動支援制度 18

旭川市
ペーパン川と旭川21世紀の森 19

ニュース&ニュース
道の駅「花ロードえにわ」7月オープン 20
まちづくり・川づくり協議会「リバーインテリジェント認定制度」... 21

石狩川振興財団 活動報告 22
石狩川を語る集い
石狩川エコミュージアム第2回学習会
劇団「川」外輪船が着く港 再演
編集後記



ゼロの山登山会

力 ナダムの象徴に、「ゼロの山」があります。湖畔キャンプ場背後にそびえる名もなき山山頂に登ると遠く山々とかなやま湖が一望できます。この絶好の景観をみんなに知ってもらおうと、早速活動開始。一の山のとりにあるの「ゼロの山」を愛称に。登山道整備を関係機関に働きかけ、自らササを刈り登山会を開きました。テレビ取材も受けるなど、認知度は高まっています。

また、冬に商工会青年部主催の「氷上ばかんす」に、冬遊びメニューを提供しました。スノーシュー散策、氷の厚さや湖の深さ調べ。シバレを利用したアイススクリームづくりなど、カナダムの知恵と行動力は、まさに浸透しつつあります。

空知川
金山ダム水源地域ビジョン
 ● テーマ
 森・人・水をつなぐ かなやま湖
 ● 推進協議会名
 カナダム



金山ダム

特集

水源地の元気とどけます

北海道の水源地域ビジョン概要

夢の出発点 ゼロの山

目標
 「守り育てる自然」(豊かな森と水づくり)、
 「利活用と遊びの自然」(やさしさあふれる環境づくり、人づくり) 平成13年～

DATA
金山ダム／空知郡南富良野町宇金山
 石狩川最大支流・空知川上流のめずらしい中空重力式ダム。昭和42年完成。南富良野町立自然公園に指定され、アウトドアのメッカとして全国ダム利用数3位を誇ります。(国土交通省「H12.ダム湖利用実態調査」)

イベント
 ● かなやま湖水まつり(自然体験会等) 7月下旬
 ● ゼロの山登山会 春から秋まで複数開催
 ● 氷上ばかんす 2月下旬頃

問い合わせ
 ● 金山ダム管理所 TEL.0167-54-2131



砂金掘りや魚とりはリピーターができるほど人気企画。

ビジョンを推進する住民の想い

私達はダムを活かし、ダムとともに生きる

カナダム 世話人代表
小林 茂雄さん

「砂金掘りや魚とりは、子供を中心にリピーターが増え、他地域からも参加が増えています。これは、近隣の滝里や大雪・岩尾内の推進協議会との交流の成果。滝里ダムに私が行って、山野草天ぷらをつくったり、南富良野町「七夕祭り・星の観察会」に、たきさとクラブから講師に来てもらったり。人やノウハウという、お互いの資産を共有しながら、これからもつきあいを広めていきたいですね。また、地域の協力体制づくりも進めています。『氷上ばかんす』は商工会青年部と進めたものです。南富良野町は過疎等の問題を抱え、検討会ではお互いの本音を出し合ってきた。みんなの想いを積み上げて、ここまで来たんです。これからも、ダムとともに生きるまちとして、ダム湖の利活用を楽しく提案・実行し、流域の人達に金山の素晴らしさを伝えていきたいですね」。



ゼロの山にて。みんなで作ったベンチも完成！(奥向かって左端が小林さん)

石狩川流域 水源地域ビジョン策定対象ダム

登録年・ダム名	ビジョンテーマ
平成13年 金山ダム(南富良野町) 漁川ダム(恵庭市) 大雪ダム(上川町)	森・人・水をつなぐ かなやま湖 恵みの水を未来の子供たちへ 大雪湖の自然を活かした利活用
平成14年 桂沢ダム(三笠市) 滝里ダム(芦別市)	本年度策定 大切な自然のふるさと「たきさと湖」
平成15年 豊平峡ダム(札幌市) 定山溪ダム()	本年度策定 本年度策定
平成16年 忠別ダム(東川町～) ※現在建設中、平成18年度完成予定	生き生き遊 ing ～大雪の恵みに学ぶ忠別湖～ ※平成16年5月末現在

北海道の優位性
 北海道では、カナダム(金山ダム)の「ゼロの山登山会」や、たきさとクラブ(滝里ダム)「スター・ウォッチング in たきさと」等、まちを代表するイベントが育ちつつあり、その元気さは全国でも評判に。国土交通省主催の毎年東京で開かれる「水源地域活性化リーダー養成研修」が、昨年、かなやま湖で開催されたほどです。本州と違って、なだらかな山々に囲まれ、国道が近くを走るなど、アクセスに恵まれた北海道の水源地は観光等に大きな可能性を秘めているといえます。



定山溪ダム

す。また、行動計画の推進が3年目を迎える対象地もあり、問題点の改善や行事の見直し、NPO化など、確実な自立を見据えた動きも高まっています。

みなさんも参加しませんか？

水源地域周辺に住んでいなくても、イベントに参加できます。また、ビジョンの推進メンバーも随時募集しています。くわしくは、関係機関配布のニュースレター、または対象地にお問い合わせください。

ダムに出かけませんか？
森と湖に親しむ旬間 7月21日～31日
 ※日程や行事内容については、各ダム管理所等にお問い合わせください。なお、各水源地域のイベントは平成16年、17年度をもとに掲載しています。正確な日時はお問い合わせください。

空知川

滝里ダム水源地地域ビジョン

- テーマ 大切な自然のふるさと「たきさと湖」
- 推進協議会名 たきさとクラブ

目標

「環境保全」「活用ソフト」「活用ハード」平成14年～

DATA 滝里ダム／芦別市滝里町

北海道の中央・空知川中流に位置し、効率的で経済的な近代工法国内初RCDで平成11年に完成しました。丘陵に囲まれた芦別市は星がよく見え、環境省「星空の街コンテスト」で108市町村の一つに選ばれています。
●滝里ダム資料館 芦別市滝里町288 TEL.0124-27-3939

イベント

- スター・ウォッチング in たきさと 6月～9月（金曜日）
- 流木アートコンテスト・自然観察会 夏

問い合わせ

●滝里ダム管理所 TEL.0124-24-4111

人とまちをつなぐ・星の降る里



このまちは星の等級が一等分明るく見える。

スター・ウォッチング in たきさと」は5年目を迎え、「星の降る里・芦別」を象徴するイベントに育ちつつあります。

天体を含め、自然の季節の変化を感じてもらおうことを目的に、年々回数と参加者が増加。滝里ダム資料館で、その時期に見られる星座等をプロジェクトに映し出し、天候が良ければ屋外で観察。星を見られた参加者からは感

動の音が寄せられ、開催するたびに反響を呼んでいます。

空知川中流の滝里湖は、上流に広大なゴルフ場があるなど人気レジャースポットで、メンバーは上下流住民や流域外も含みます。今後は、水質改善や意識の啓発等々「湖面利活用のルール」を進め、地域と人をつなぐ水源地として、様々なプロジェクトを予定しています。

大自然へのチャレンジ

「も話題に。また、旭川市「石狩川フェスティバル」に出展し、市民向け体験会を実施するなど、ダムを拠点に外へ向けた発信を積極的につづけています。

また、日本有数の大河・石狩川を育む自然を湖上から体感する仕掛けづくりにチャレンジ。カヌーや手作りイカダ、冬はかんじきやスノーモービルなどで湖上横断を試行中。

石狩川

大雪ダム水源地地域ビジョン

- テーマ 大雪湖の自然を活かした活用
- 推進協議会名 ピュアレイク大雪

目標

国立公園内のダム湖という特性を活かし、自然環境を保全しつつ享受できるイベントで、通過型から滞在型への転換を図る。平成13年～

DATA

大雪ダム／上川郡上川町宇層雲峡大学平

多目的ダムとしては日本初のロックフィルダムで昭和50年に完成しました。日本最大の山岳公園・大雪国立公園の中において、国道39号と国道273号が大雪湖沿いを通る恵まれたアクセス。表玄関の層雲峡もすぐそばです。

- イベント ●流木アート作品展&体験会 大雪湖、上川町行事や石狩川フェスティバル等で実施
- 層雲峡花ものがたり 5月下旬～10月上旬

問い合わせ ●大雪ダム管理所 TEL.01658-5-3141



旭川市「石狩川フェスティバル」での体験会。

目標

「連携と協働で安全な水を守ろう!」「自然に恵まれた水源地域を学ぼう!」「水源地域づくりに参加しよう!」「自然に恵まれた水源地域を利用しよう!」平成13年～

DATA 漁川ダム／恵庭市漁平

恵庭市街地近郊のロックフィルダムで昭和55年に完成しました。周辺は白鳥の滝等景勝地として知られ、「北海道自然環境保全指針」で「すぐれた自然地域」に選定され、シーズンには近郊からたくさんの方が訪れます。

- イベント ●えにわ湖慈しみフェスタ 7月頃

問い合わせ ●漁川ダム管理所 TEL.0123-33-7107

千歳川支流 漁川

漁川ダム水源地地域ビジョン

- テーマ 恵みの水を未来の子供たちへ
- 推進協議会名 漁川ダム周辺環境整備連絡協議会

環境を守る、未来を育てる

えにわ湖は水質悪化が進み、観光客によるゴミの不法投棄など、ダム湖周辺の環境整備が課題になっていました。ビジョン策定にあたっては、住民アンケートを実施しました。2,317人もの回答を得、結果を反映した、連

携と協働による水質保全を大きなテーマに掲げました。市民活動が活発で住民の意識も高いことから、ビジョンでは一歩進んだ植林・育林体験学習を継続実施しています。市内小学校を対象に、まずは事前

学習。関係者が学校へ赴き、ゲーム感覚でダムと暮らしのつながり、森と水の大切さ等を学びます。現地学習ではヤチダモやアカエゾマツの苗木を植樹し、実際に行われる枝払いも体験します。環境を守る子ども（未来）を育てる重要性を教える活動です。



植樹体験。

策定 & 推進予定



気になる場所を集めたマップによる見学会(桂沢ダム)

豊平川水系

豊平峡ダム・定山溪ダム 水源地域ビジョン

平成15年～本年策定予定

DATA 豊平峡ダム／札幌市南区定山溪国有林84林班

札幌中心部からほど近い支笏洞爺国立公園内に位置する、道内唯一のアーチ式ダムで昭和47年完成。ダム湖は観光協会からの要請で「定山湖」。「水源の森百選」「ダム湖百選」選定。

- 豊平川ダムミュージアム「ひふみはなめ」 札幌市南区定山溪7区 TEL.011-598-2621

DATA 定山溪ダム／札幌市南区定山溪8区

豊平川支流・小樽内川に、豊平峡ダムと並ぶように建設された重力式の道内最大のダム。平成元年に完成。ダム湖名は、すでに「定山湖」があるため「さっぽろ湖」に。

- 定山溪ダム資料館 札幌市南区定山溪8区 TEL.011-598-2513

- イベント ●豊平峡ダム・定山溪ダム水源地ツアー 7月・9月頃

問い合わせ 豊平川ダム統合管理事務所 TEL.011-583-8110

幾春別川 桂沢ダム水源地地域ビジョン

平成14年～本年策定予定

DATA 桂沢ダム／三笠市桂沢

芦別川芦別ダムから幾春別川桂沢ダムに貯留させる道内初の多目的ダムで昭和32年に完成。現在、再開発による「新桂沢ダム」と幾春別川支流・奔別川「三笠ぼんべつダム」が建設中。

- イベント ●三笠ダムフェスタ&みかさ遊園まつり 7月末頃
- みかさ桂沢紅葉まつり 10月初旬～中旬

問い合わせ 桂沢ダム管理所 TEL.01267-6-8272

DATA 完成間近な忠別ダム／上川郡東川町～

忠別ダムは大雪山国立公園入口に位置し、重力式コンクリート・フィル複合ダムで、本年試験湛水、平成19年からダム効果が発揮される予定。ダム湖名は親しみ深いという理由から一般公募で「忠別湖」に決定。

問い合わせ 忠別ダム建設事業所 TEL.0166-82-3414

忠別川 忠別ダム水源地地域ビジョン

平成16年～本年行動計画推進

- テーマ 生き生き遊 i n g ～ 大雪の恵みに学ぶ忠別湖
- 推進協議会名 忠別ダム水源地地域ビジョン推進準備会

サハリンの 人と川

ユジノサハリンスク

宗谷海峡

稚内

日本海



ユジノサハリンスク近郊のバダローシュカ川です。

在ユジノサハリンスク日本国総領事館 副領事

宝住 誓司

◎サハリンのいま

現在、私はロシア連邦サハリン州ユジノサハリンスク市にある日本国総領事館に勤務しています。サハリン州の人口は約43万人で、州都のユジノサハリンスク市は約17万人。サハリン島（樺太）は北海道の約1・1倍の面積を持ちながら、人口は10分の1以下に過ぎません。北海道の北に位置し、最短距離で43kmしか離れていませんが、日本から観光で訪れる人は2004年の統計で年間3、800人程度にとどまっています。

当地の観光資源の目玉はなんととても豊かな自然であり、この点は北海道と共通ではないでしょうか。観光で訪れる人の目的は大きく分けて墓参、観光（樺太時代の建物見物）、釣り、3つのパターンになるようです。墓参を目的とする人は、当然の事ながら当地を何度か訪れているようですが、釣りツアーに参加している人もリピーターになれる方が多いようです。その理由としては、先に述べたサハリンの豊かな自然、とくに何も手が加え



樺太庁会議室、今は軍事裁判所。



みんなの食卓、自由市場。



旧拓銀で、今は美術館。

られていない河川および豊富な魚が魅力になっているのだと思います。そこで、当地の釣り事情を通してサハリンの人と川についてお話をしたいと思います。

◎サハリンの釣り事情

当地の川で釣れる魚はイワナ、ヤマメ、オシロコマ、ウグイ、サクラマス、アメマス、キュウリウオ、カラフトマス、イトウ、ギンザケ、シロサケなど、ニジマスやブラウントラウトが放流される以前の北海道の河川とあまり変わりありません。

今でもサハリン島の北半分では1m以上のイトウがよく釣れます。日本からの釣りツアーに参加される人は、このイトウを狙って毎年のように来られる方も多いようです。さらにユジノサハリンスク近郊の河川でも十分に大物釣りが楽しめます。

まず5月になるとサクラマスの遡上が始まり、そのサクラマスの卵（イクラ）を狙ってアメマスが遡上し、その後カラフトマス、ギンザケ、シロサケとつづきます。冬になれば川はすべて結水し、その上で穴釣りを楽しむこともできます。日本にいれば川岸から釣る魚を氷上で釣るというのは、なかなか新鮮に感じられます。



幻のイトウ、1m超え。うらやましいー。

◎初めての氷上釣り体験

私が初めて氷上で釣りをしたのは2003年の冬。ロシア人のおじいちゃん・アレクセイさんに連れられ、ユジノサハリンスク市から約20km（稚内から北は約200km）に位置するバダローシュカ川でのヤマメとイワナ釣り。おじいちゃんから手作りの竿、生イクラ、そしてスポンジを渡されて釣りの開始です。ちなみに、このスポンジの使い道はおわかりになりますか？長い時間イサの匂いが保てるようイクラの中身を染みこませて、イクラと一緒に針にさして使うのです。

釣りを始めて30分。二人の釣果は私が1匹、おじいちゃんが25匹。それを見かねたおじいちゃんは私の手をつかんで釣り始め、あつという間にイワナを釣り上げてみせました。どうやら、私のあわせ方が悪いことを教えたかったようです。

その日の天候は吹雪。体感温度はマイナス25度。そういった状況でもおじいちゃんは素手で釣りをしていました。見かねた私が「寒くないのか」と尋ねたところ、「川の水で手をすすげば温かくなるよ」と言っって手を水につけて見せました。たしかに外気温より水温の方が温かいのは理解できるのですが、私には到底マネはできません。「ロシア人恐るべし」です。

結局、その日の釣果はおじいちゃん



河口付近での真冬のニシン釣り(筆者)。

が200匹に私は30匹。10cmから30cmのイワナ、ヤマメ、イトウ、そして海から遡上してきたキュウリウオとコマイが釣れました。ここからさらに北へ400km程行けば1m級のイトウも釣れますが、さらなる寒さへの覚悟が必要です。しかし、そんな寒さの中でもロシア人はごく当たり前のよう釣りを楽しんでいたりするのですが……。

◎人と川とのつながり

私もそうですが、ロシア人も川で釣った魚は自宅に持ち帰り美味しくいただきます。川魚には泥臭いイメージがありますが、こちらの魚には全くそういったものを感じません。また、一部の貧しいロシア人は週末を利用して釣った魚を市場で売って生計の足しにしている人も見受けられます。

ロシア人にとって川は非常に身近なものであり、食卓を賑わす源となり、

その生活を支えるものでもあります。また、天気が良ければ川沿いの空き地でシャシュリク（ロシア風バーベキュー）をし、四季折々の釣りを楽しみ、短い夏の間には水浴びや日光浴をしています。

サハリンの人々は川とふれあうことで、四季を感じているのだと思います。そういった川とのつきあい方が川を豊かなものとして感じさせてくれるのであり、またサハリン生活の魅力となっているのだと思います。そして、その魅力が日本の釣り人を引きつけるのかも知れません。

日本、とくに北海道はサハリン同様に豊かな自然を有しています。北海道でもこのように人と川の密接なつながりのある生活をぜひ送りたいと思っています。そして、何よりもこのサハリンの自然がいつまでも変わらぬことを願ってやみません。



シャシュリクできるまで、ちょっと一服。

大都市近郊の地の利



栗沢町

「マム・オナイ」栗の多い沢」を意味する栗沢町は、明治23年に初代村長となる和歌山県人・山田勢太郎が農業の基礎を築き、同25年に栗沢村新設、翌年岩見沢村の所轄に。開村18年目に自治体となりました。

農業とともにまちの反映を支えたのは、幌内川上流の万字等の炭鉱です。大正3年、万字からの運炭のため、幌内川に沿う万字線鉄道が開通され、奈良・美流渡が相次ぎ開抗し隆盛を極めます。その後、国内炭の斜陽化等で炭鉱はなくなりりましたが、炭鉱跡は「万字炭山森林公園」として歴史を今に伝え、住民の憩いの場としても活用されています。



当初、自前でつくられた清真布川防水門(昭和9年築設)

町内を流れる清真布川は、夕張川支流幌内川に注ぎ、夕張川や石狩川の増水時には幌内川を経て清真布川に逆流する、特異な現象があったため、大正13年、道内初となる木造の防水門を自前で設置



清真布市街の現影 明治末 現在の栗沢町(北海道大学附属図書館蔵)

(昭和9年築設)。昭和11年の夕張川新水路完成により、安全性は増し、現在は札幌近郊というアクセスを活かし、「栗沢クラインガルテン」等、農業を柱に都市との交流を活発に図っています。



石狩川の歴史

岩見沢市、北村、栗沢町合併 それぞれの歴史と 文化を生かして

平成18年3月27日(月)、岩見沢市、北村、栗沢町が合併し、「岩見沢市」として新たな一歩を踏み出しました。石狩川流域市町村間としては唯一です。

空知の中核都市



岩見沢市

明治11年、幌内炭鉱開採のため、開拓使は札幌〜幌内間の道路を開削。作業員達は、幾春別川の休泊所で疲れをいやしたことから、「浴澤」と称しました。由来の地には、現在、記念碑が建てられ、幾春別川リバーパークの一部となっています。

同15年、幌内〜手宮間の鉄道が開通し、岩見沢駅が開設。16年から山口・鳥取県等土族の集団移住が始まり、30年に空知支庁設置、41年には函館に次いで上水道の給水が開始されるなど、岩見沢は陸上交通の要、空知の政経・文化の中心へと発展を遂げます。

幾春別川や利根別川等が石狩川に合流し、台風や豪雪による被害が多発する地帯でもあります。幾春別川ショートカットや護岸工事等が進められ、また、幾春別川に110年ぶりにサケが戻ったことから、市民団体によるサケ放流活動や流域交流等が熱心に続けられています。都市像も市民参加のまちづくりを掲げています。



岩見沢停車場 明治30代 (北海道大学附属図書館蔵)



岩見沢浸水の景 明治31 (北海道大学附属図書館蔵)

水との闘い、水の恩恵



北村

安政3〜5年、石狩川水源調査の途で、探検家・松浦武四郎はアイヌの宿泊地だったニイルルマナイに寄宿。「石狩日誌」で北村地区が世に紹介されました。元北村役場前庭には顕彰碑、石狩川沿いには宿泊地碑が建てられています。

明治17年、岩見沢村に戸長役場が設置され、北村地区はその区域に。同27年に、山梨県人・北村雄治が移民受け入れ開墾に着手、明治33年の分村時、功労者の北村姓を村名に自らの道を歩みました。

幾春別川と旧美唄川が石狩川に注ぐ地点に位置する北村は、泥炭で高低差5・8mという平坦地のため、大雨が降ると石狩川の高い水位の影響を受け、全村にわたる被害を幾度も受けました。大正14年の美唄川新水路の完成や土地改良等の対策により、耕地面積の93%が水田の道内有数の米どころに。また昭和50、56年の大水害を機に計画された幾春別川新水路が本年度ついに完成に至り、食糧基地として発展が期待されます。



栄町地域(北村) 昭和56年8月6日洪水 (北村提供)



羊毛を染める 石狩川 昭和初期(北村農業資料館提供)

住民の支持を受け 合併の道へ



岩見沢市長(中)、北村長(右)、栗沢町長(左)による合併協定調印式(H17.2.25)

空知中央地域合併協議会は、3市町村に、美唄市、三笠市、月形町を加えた6市町村で平成14年から合併を検討。岩見沢市、北村、栗沢町は歴史的つながりや日頃の交流が深い点、住民アンケートで合併肯定派が多数を占めたことから、合併の道を決断しました(63.5%岩見沢調査)。

DATA 岩見沢市

- 面積 / 481.1km²
- 人口 / 96,302人 (平成12年国勢調査)

- 目指す将来像 / 豊かなみどりとぬくもりを育み みんなで支え合い創造するふるさと
- 住所表示 / 空知郡北村字豊正 → 岩見沢市北村豊正 空知郡栗沢町本町 → 岩見沢市栗沢町本町
- 市役所 / ○本庁：現在の岩見沢市役所 ○支所：北村役場＝北村支所 栗沢町役場＝栗沢支所

3 MAR

3/1~5/31 サケ稚魚放流体験 千歳サケのふるさと館 ☎0123-42-3001 千歳市千歳川サーモンパーク

4 APR

4/9 高度利用研究会 ☎0125-52-3644 砂川市パンケ歌志内川
4月中旬頃 大雪と石狩の自然を守る会 ☎0166-55-0375 旭川市石狩川秋月橋右岸広場
えにわ市民サケの会 ☎0123-34-1111 恵庭市漁川河川敷
幾春別川をよくする市民の会 ☎0126-23-4111 岩見沢市幾春別川西大橋左岸

5 MAY

5/4.5 札幌市豊平川さけ科学館 ☎011-582-7555 札幌市真駒内川河川敷

5/1~8月 石狩川クリーンアップ作戦 (財)石狩川振興財団 ☎011-242-2242 石狩川流域市町村各実施

6 JUN

6月~8月 石狩川リバーセーリング 江別ヨットクラブ ☎011-386-4847 江別市石狩川新石狩大橋
6/17 H18石狩川水防公開演習 旭川開発建設部治水課河川情報係 ☎0166-32-1111 旭川市流通団地先 石狩川秋月橋左岸

7 JUL

7/5 夕張川洪水危機管理演習 石狩川開発建設部江別河川事務所 ☎011-382-2358 江別市民体育館
7月上旬 石狩川フェスティバル 旭川北商工会 ☎0166-57-2410 旭川市北旭川大橋右岸
7月中旬(土日) 石狩川下覧会川下り 同事務局 ☎0125-65-2341 深川市~砂川オアシスパーク~月形町
7月下旬 ラブリバー砂川夏まつり 砂川市観光協会 ☎0125-54-4995 砂川オアシスパーク
7/30 サマースカイフェスタ (社)滝川スカイスポーツ振興協会 ☎0125-24-3255 たきかわスカイパーク

8 AUG

8月下旬頃 川の調べコンサート 川の科学館 ☎0125-24-0989 滝川市川の科学館前庭

9 SEP

9月中旬 インディアン水車まつり 同実行委員会 ☎0123-23-4630 千歳市千歳川サーモンパーク
石狩さけまつり・サケ地引き網漁 同実行委員会 ☎0133-72-3167 石狩市弁天歴史通り



春 SPRING

夏 SUMMER



秋 AUTUMN



流域の現在

雨竜町

水と花の楽園 雨竜沼湿原のこれから

平成17年11月、国際的に重要な湿地の保護を目的とした「ラムサール条約」に、雨竜沼湿原が登録されました。石狩川流域では、美瑛市宮島沼(H14)に次ぎ、山岳湿原としては世界でもめずらしいものです。



高山植物が咲き誇る……(写真 自然写真家 岡本洋典)



日本の自然を伝える秘境
雨竜沼は、標高850mの溶岩台地に東西2km、南北1kmに及ぶ。日本有数の山岳型高層湿原帯です。大小700以上の池塘が点在し、中には真円形の池塘も多数存在します。

秘境でしたが、国定公園指定後は、折からのアウトドアブームも手伝って、現在は年間2万人が訪れるようになりました。
ラムサール登録後は、世界に誇る自然を求めて、さらに多くの人々が訪れる事が予想されます。

さらに、動植物の生息・生育の場として、学術的にも貴重な価値を有しています。
雨竜沼湿原を含む増毛山地一帯は、平成2年、「暑寒別・天売・焼尻国定公園」に指定され、雨竜沼湿原全域は第一種特別保護地域になりました。それまでの雨竜沼は、深山幽谷のためか、一部愛好者が訪れるだけの

未来に残していくこと

湿原を未来に守り伝えるため、住民による「雨竜沼湿原を愛する会」が、国定公園指定と同時期に発足。毎年の清掃登山や、動植物生息調査等、湿原の健康状態を把握する活動は高い評価を得、平成16年には「北海道遺産」にも登録されました。
しかし、雨竜沼湿原はさまざまな問題を抱えていることも事実です。湿原植生の荒廃・裸地化、非湿原植物の侵入、池塘の乾燥といった湿原環境の変化や、登山シーズンの混雑集中することによる駐車場の混雑等。北海道では平成12年に、「雨竜沼湿原保全プラン」を策定。地域と連携しながらの、賢明で具体的な対応が待たれます。
観光協会では、登山者に対して「環境美化整備協力金」(500円)を呼びかけ、また、4月1日には、民営による「雨竜沼自然館」が雨竜道の駅にオープンしました。多彩な活動を通して、湿原のすばらしさ、残していくことの大切さをじかに訴えていきます。



ウガンダ・カンバラで登録認定書を受け取る藤本雨竜町長。

北海道開発局

1 河川整備基本方針、河川整備計画の策定について

(1) 河川の整備計画制度の見直し

平成9年度に河川法が改正され、地域の意見を反映した河川整備の計画を策定する制度が導入され、これまでの工実施基本計画に代わり、河川整備基本方針及び河川整備計画を策定することになりました。

(2) 河川整備基本方針と河川整備計画の特徴

① 河川整備基本方針
河川整備基本方針は、河川管理者（一級水系は国土交通大臣、二級水系は都道府県知事）が定めるものであり、手続き及び内容は河川法第16条の1に定められており、その概要は図1、図2のとおりです。

② 河川整備計画

河川整備計画は、河川整備基本方針に基づき河川管理者が定めるものであり、手続き及び内容は河川法第16条の2に定められており、その概要は図1、図2のとおりです。

〈手続き〉
○関係地方公共団体の長の意見を聴く
○必要に応じて学識経験者や関係住民の意見を聴く
○策定後、公表する
〈内容〉
○20～30年後の河川整備の目標を明確にする
○個別事業を含む具体的な河川の整備の内容を明らかにする

〈手続き〉
○社会資本整備審議会の意見を聴く（二級水系の場合、都道府県河川審議会がある場合）
○策定後、公表する
〈内容〉
○長期的な視点に立った河川整備の基本的な方針を記述する
○個別事業など具体的な河川整備の内容を定めず、整備の考え方を記述する

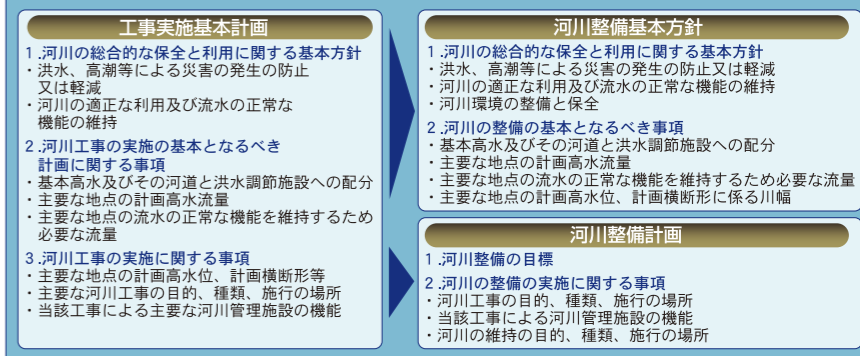


図1 河川整備基本方針に記載する内容

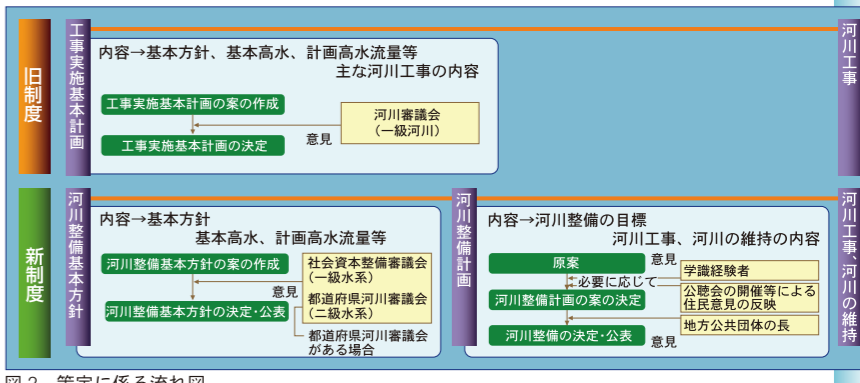


図2 策定に係る流れ図

河川整備基本方針、河川整備計画の策定状況について

2 河川整備基本方針の策定状況

(1) 全国の策定状況



全国における河川整備基本方針の策定状況については、一級河川109水系のうち、図3のとおり、42水系で策定済みとなっています。（H18・2時点）

番号	水系名	番号	水系名
1	天塩川水系	6	留萌川水系
7	石狩川水系	9	後志利別川水系
11	沙流川水系	14	岩木川水系
15	高瀬川水系	18	鳴瀬川水系
20	阿武隈川水系	21	米代川水系
23	子吉川水系	24	最上川水系
28	利根川水系	30	多摩川水系
31	鶴見川水系	33	荒川水系
39	常願寺川水系	43	手取川水系
45	狩野川水系	46	富士川水系
47	安倍川水系	49	菊川水系
51	豊川水系	53	庄内川水系
57	櫛田川水系	59	由良川水系
65	紀の川水系	67	九頭竜川水系
72	斐伊川水系	74	高津川水系
78	芦田川水系	82	吉野川水系
86	肱川水系	90	遠賀川水系
92	筑後川水系	97	本明川水系
99	白川水系	102	大分川水系
103	大野川水系	104	番匠川水系
105	五ヶ瀬川水系	107	大淀川水系

図3 全国の河川整備基本方針の策定状況

(2) 北海道の策定状況

北海道における河川整備基本方針の策定状況については、一級河川13水系のうち、図4のとおり、5水系で策定済みとなっています。（H18・2時点）

策定年月	水系名
平成11年12月	留萌川水系
平成11年12月	沙流川水系
平成15年 2月	天塩川水系
平成16年 6月	石狩川水系
平成17年11月	沙流川水系(変更)
平成18年 2月	後志利別川水系

図4 北海道の河川整備基本方針の策定状況

以下に、平成17年度（H18・2時点）において策定（変更）された2河川について、河川整備基本方針の概要を示します。



図5 沙流川河口部



図6 沙流川水系流域図



図7 後志利別川



図8 後志利別川水系流域図

3 河川整備計画の策定状況

(1) 全国の策定状況

全国における河川整備基本方針の策定状況については、図9のとおり、17河川で策定済みとなっています。（H18・2時点）

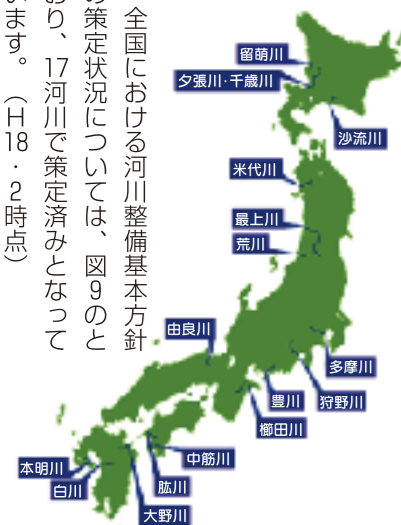


図9 全国の河川整備計画の策定状況

(2) 北海道の策定状況

北海道における河川整備計画の策定状況については、図10のとおり、4河川で策定済みとなっています。（H18・2時点）

策定年月	河川名
平成13年10月	留萌川
平成14年 7月	沙流川
平成17年 4月	石狩川水系夕張川
平成17年 4月	石狩川水系千歳川

図10 北海道の河川整備計画の策定状況

さらに、現在の河川整備計画の検討状況については、石狩川水系幾春別川、留萌川（変更）については、関係機関からの意見聴取を、天塩川、沙流川（変更）、石狩川水系豊平川、石狩川水系空知川については、学識者及び関係住民からの意見聴取を実施しているところであり、策定への手続きを進めています。その他の河川についても、早期の策定に向け、検討を進めているところです。

検討状況	河川名
関係機関からの意見聴取中	石狩川水系幾春別川
	留萌川（変更）
学識者及び関係住民からの意見聴取中	天塩川
	沙流川（変更）
	石狩川水系豊平川
	石狩川水系空知川

図11 北海道の河川整備計画の検討状況

後志利別川は、その源を瀬棚郡今金町の長万部岳（標高972m）に発し、上流部で渓谷をつたい、美利河湖へ流れ山間部を蛇行し、下流部で今金町及びせたな町市街部を貫流し、日本海へ注ぐ自然環境豊かな清流河川です。過去に大規模な水害により甚大な被害が発生しており、近年でも、下流部の低平地で内水被害が発生しています。このような状況を踏まえ、災害の発生防止として、良好な河川環境の保全にも配慮しながら河道掘削、堤防の拡築等の対策を実施します。また、これまで8度水質日本一となった清流河川であることを踏まえ、水質が良好で多様な動植物が息づく後志利別川の河川環境について、地域と連携しながらその保全に努める方針としました。

② 後志利別川水系

北海道開発局 石狩川開発建設部

幾春別川新水路の完成と 地域の新たな発展に向けて

平成3年に着手された幾春別川新水路事業が、本年、通水をむかえるに至りました。道央の米どころ・旧北村（岩見沢市北村）では記念行事が行われ、安全で豊かな地域として発展が期待されています。



石狩川の中流部にあたる石狩川支川の幾春別川と旧美唄川の周辺は、低平地が広がり、浸水被害が繰り返されてきました。この対策として、幾春別川と旧美唄川を一緒に流す新しい水路をつくり、石狩川への合流点を約4km下流に移し、洪水時の石狩川の背水影響を低減する「幾春別川新水路事業」が計画され、平成3年度に着手しました。平成15年度からは、河川改修効果が極めて高い区間を対象に、完成目標期間を定めて重点的に整備を行う「緊急対策特定区間」に認定され、効果の早期発現を目指してきました。また、この新水路を含む「水害に強いまちづくり」は国、北海道、北村、地域住民が一体となって推進しています。



幾春別川と旧美唄川を結ぶ、幾春別川新水路に通水が行われました。これで住民の悲願であった幾春別川新水路の機能が発揮されることになります。当日は、吹雪まじりのあいにくの天候でしたが、地域住民はじめ関係者が駆けつけ、旧美唄川から静かに水が流れ出すと、拍手と歓声が沸き起こりました。



向かって左から七澤石狩川開発建設部次長、村上旧北村長、池田幌達布新水路事業対策協議会長による通水。

みんなで考えよう。暮らしの明日について

幾春別川新水路通水記念シンポジウム

日時／平成18年2月10日(金)

会場／北村農村環境改善センター

講演

忘れな草

啄木の女性たち 橋智恵子を中心に

講師

山下 多恵子氏
●長岡工業高等専門学校非常勤講師

悲運の歌人・石川啄木と北村をつなぐひとりの女性・橋智恵子は、「一握の砂」の中で格別の想いを寄せて詠まれ、札幌から北村に嫁いだ女性です。国際啄木学会会員の山下先生は、たった二度話しただけの智恵子の清らかさに、啄木は慰めと救いを求めたこと、今年は啄木生誕120年で、度重なる洪水に絶え抜いた北村と、挫折の連続でも誇りを失わなかった啄木を照らし合わせ、エールをおくるとともに美しくもはかないエピソードに、会場中が感動に包まれました。

地域の新たな 発展に向けて

パネリスト

パネルディスカッション



大原 弘一氏
●旧北村議会議長

農業のまちとして、消費者にアピールするものを農家自らが発信し、人材を育てていくことが大事です。消費者と生産者の距離が非常に近くなり、多くの人に情報発信していきたい。



村上 宗範氏
●旧北村長

昭和56年の大水害から25年間、大きな水害等もなく過ごしてきましたが、現状を上回る雨が降った時の心配もあり、住民の皆さんと手を携えながら、これからも治水対策に頑張っていきたい。



コーディネーター
山上 重吉氏
●専修大学北海道短期大学環境システム科教授

(総括) 北村の農業が日本の将来を支えるというように、長いスタンスで考えることも重要です。水害を乗り越えてきた「北村スピリット」で、岩見沢市の中でも欠かせない存在になるよう、信頼関係とパートナーシップを構築していくこと。幾春別川新水路の通水は基盤の一つになると期待します。



宝沢 康晴氏
●株式会社コミュニティエフエムはまなす取締役部長

自らが川の現状を知ろうという、非常に盛り上がる強い気持ちだと思います。治水安全策とともに、「川に親しむ活動」を事業の中で推進する形がとれれば幸いです。



渡邊 康玄氏
●独立行政法人北海道開発土木研究所河川研究室長

土地利用と治水は密接に関係しています。これからは、洪水の記憶というものを、その後に生まれた人、その後成長された人、後世にまで伝えてほしいですね。



石狩の空知郡の牧場の
お嫁さんより送り来しバタかな。

「悲しき玩具より」(握の砂)石川啄木歌碑「北村豊里

札幌市



創成川

札幌市では、平成8年度から河川整備に多自然型川づくりを導入し、河川環境の向上に取り組んでいます。また、平成9年の河川法改正で、河川整備の目的に新たに「環境」の項目が加えられ、地域住民の意見の反映が義務付けられるなど、年々市民の「川の環境」に対する関心は高まり、自発的な美化活動が活発になりつつあります。

このような市民意識の高まりを受けて、札幌市では「河川愛護活動の活性化」および「河川環境情報の収集」を図るために、平成5年度から、月に1度の河川巡視と状況を報告してもらう「河川環境モニター制度」を実施し、平成17年度実施河川は25に上ります。

一方、昭和55年からは、「私人が行う河川維持作業の報償取扱要綱」を定め、

美化意識の高まりを受けて

市民協働で川を美しく、健やかに

河川美化活動支援制度の取り組み

市街化調整区域の河川を対象に、草刈・浚渫、雑木・流木の除去などの清掃活動を支援してきましたが、地域条件や作業内容に制約が生じることから、見直しが求められていました。

そこで、住民や愛護団体等の美化活動を柔軟にサポートし、市民協働をより推進する制度として、平成17年度から新たに、「河川美化活動支援制度」を創設しました。

河川美化活動支援制度

札幌市が維持管理する河川を対象に、清掃・草刈・花壇の手入れなどの美化活動を行う、町内会・河川愛護団体・企業・NPO等の団体にに対し、ゴミ袋・軍手、タオルの支給、ゴミの回収などを支援することで、市民の河川環境意識の向上や良好な水辺環境の保全を図ることを目的としています。

制度の概要

- ◎対象河川—札幌市が維持管理している河川
- ◎支援する活動—本市維持管理河川等における、清掃・草刈・花壇の手入れ・その他河川等の美化に関する活動
- ◎支援する団体—町内会・河川愛護団体・企業・NPO等の団体
- ◎支援内容
 - (1) 物品の支給～ゴミ袋・軍手・タオルの支給
 - (2) 草・ゴミ等の回収
 - (3) 保険の加入～活動中のケガ・事故に一定の保障を行う

◎手続方法

活動する河川が流れる区の各土木センターに申請し、支給品を受け取り、美化活動が終了した時点で完了報告書を提出（利用回数に制限はなし）

実施状況

- ◎平成17年度（試行）の実施状況
 - ～16河川、32団体、3,001人
- ◎主な清掃河川・団体（抜粋）

〈創成川〉札幌弱電設備業協同組合	250名
札幌中央郵便局	23名
北野地区町内会連合会	402名
〈鴨々川〉鴨々川を清流にする会	550名(2回)
〈安春川〉新琴似むつみ会	85名
〈追分川〉宮の沢中央町内会	57名(3回)
〈旧中の川〉旧中の川をきれいにする会	96名(3回)
〈西野川〉フォレストーズクラブ	202名(3回)
〈手稲土功川〉手稲鉄北ふれあい健康づくり	150名 他



地域が率先する河川の保全へ

平成17年度試行の結果、16河川、32団体、延べ3,000人以上の申し込みがあり、予想以上の反響でした。報告書等からもこの制度に対する市民からの反応も良好です。

今後、河川環境の保全は地域との協働が不可欠であることから、この美化活動支援制度の内容を充実し、「河川環境モニター制度」についても、河川数やモニター数の拡充など、より市民が参加しやすい取り組みを進めていきたいと考えています。

そして、これらの取り組みが、やがては地域が率先して河川環境保全に取り組む、「アダプト（里親）制度」への移行も視野に入れながら、良好な河川環境の維持・保全を市民協働で進めていきます。

●問い合わせ先
美化活動支援制度の窓口
建設局下水道河川部河川管理課
TEL.011-818-3415

北海道開発局 旭川開発建設部



活動拠点となる北海道遺産・旭橋とドリームランド周辺

あさひばし 子どもの水辺協議会

旭川市内に2つ目の「子どもの水辺協議会」が発足しました

平成18年2月9日、旭川市常盤公園内の「川のおもしろ館」で、「あさひばし子どもの水辺協議会」の第1回会合が開催されました。

この協議会は文部科学省、国土交通省、環境省が連携した「子どもの水辺」再発見プロジェクトを推進する組織で、

旭川市教育委員会や地元小学校、市民福祉団体、地域の市民委員会、旭川開発建設部などの委員で構成され、座長には北海道教育大学の山形積治名誉教授が選出されています。旭川市内では、「ながやま子どもの水辺協議会」に次ぐものです。

旭川市街中心部にあって、古くから旭川のシンボル「旭橋」周辺の河川空間に、子どものための豊かな水辺をつくるため、協議会としての活動理念と基本方針について確認し、意見を交換しました。



第1回あさひばし子どもの水辺協議会(中央が座長の北海道教育大学の山形積治名誉教授)

また、この取り組みの拠点となる「川のおもしろ館」と相互に連携し、旭川市街中心部という立地特性を生かした活動内容を検討していく方針です。

さらに、子どもに「福祉の川づくりモデル事業」により整備された「リベライン旭川パーク・フラワーランド」を活用し、子どもたちやハンディのある人々が安全に親しめる「にぎわいの水辺づくり」を推進することとしています。

活動理念

石狩川や旭橋、常盤公園や河川公園など、旭川市民の憩いの場でもある立地特性を生かし、子どもたちが生き生きと川に親しめる水辺づくりを進めます。この地域に集積された各種公共施設との連携に努め、様々な楽しみ方を通じて、環境やマナー教育につなげる「地域協働型のプログラムづくり」を進めるとともに、その成果を広く石狩川上流域や全国へ発信します。

5つの基本方針

- ①市民参加を図り、公共施設と連携しながら多目的な活動を支援します。
- ②様々な水辺体験を適切にサポートする体制と環境を整えます。
- ③みんなが安全に遊ぶためのマナーやルールを学ぶ場をつくります。
- ④河川空間での体験を通じ、「川と人との共生」の大切さを啓発します。
- ⑤水辺づくりの成果を広く発信し、各地との交流を深めます。



リベライン旭川パーク・フラワーランドに整備されたスロープ。



あさひばし子どもの水辺の拠点・川のおもしろ館。



「ギャーッ」このスピードと迫力、景色が最高

子ども達の歓声が響いて

2006 永山新川
エコホテル&冬まつり
平成18年2月25(土)・26(日)

「ながやま子どもの水辺」の活動拠点である、永山新川と「川のふるさと交流館・さらら」で、昨年に続き2回目となる「エコホテル&冬まつり」が開催され、スノーラフティングや乗馬体験など盛りだくさんのメニューに、子どもばかりか、大人達からも大きな歓声があがりました。

また、25日には6回目となる「ながやま子どもの水辺協議会」も開催され、平成18年度の取り組み内容などについて話し合いが行われています。

旭川市

ペーパン川と旭川21世紀の森

さわやかな緑の中、ペーパン川の清流とふれあえる水辺の広場は、せせらぎの澄んだ音色をBGMとした親水空間として、また、清涼感あふれる憩いの空間として訪れる多くの人々に愛されています。



水辺広場にはヒオウギアヤメやスイレン、コウホネなどの水生植物が見られます。

あずまやから水面に映る四季折々の周囲の山々の景色を眺めながら、自然の大パノラマに包まれてみませんか。

旭川21世紀の森

所在地：旭川市東旭川町瑞穂



川に親しむ

水に親しむ憩いの空間として、毎年、様々なイベントが開催されています。小さな子どもでも安心して水遊びができる水辺で、自然の水と戯れると誰もが童心にかえり楽しめます。



ペーパン川に放流したニジマス釣り大会や、子ども達によるつかみ取り大会など、水辺広場の特性を生かしたイベントが開催され、家族で自然に親しみながら、1日中楽しむことができますと大好評。



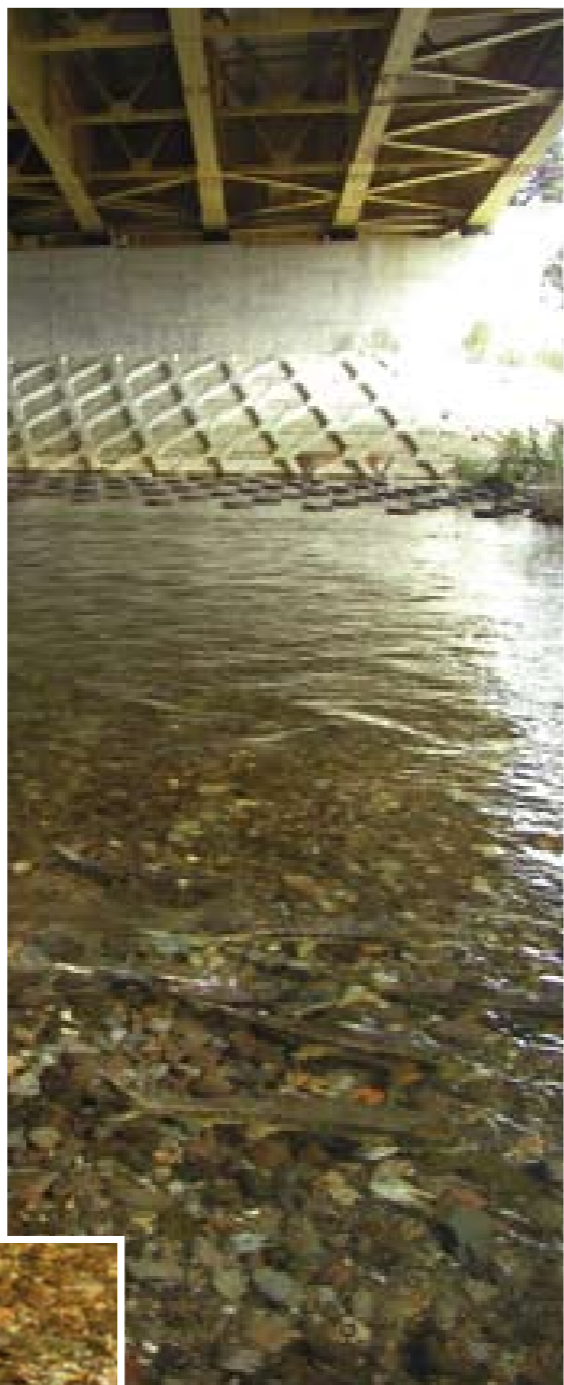
旭川市街地から東へ約30km。残雪を抱いた大雪の山々を背に流れる、石狩川水系牛朱別川支流ペーパン川の源。豊かな自然につつまれたペーパンダム周辺には、北海道と旭川市により創られた「21世紀の森」があり、自然環境と調和した憩いの場として多くのの人々に利用されています。

「21世紀の森」は、緑豊かな自然と水とのふれあいを通して、キャンプや森の散策など、ファミリーやグループで楽しめ、遊んで、学べる、体験型野外ゾーンとなっています。特に、ペーパン川と一体になった水辺広場は、訪れた人々が自然の水に直接ふれることのできる、美しく、清らかで、安らぎに満ちたやさしい水辺として整備され、大人から子どもまで、環境教育の場として、また、レクリエーション活動の場として、様々なイベントが行われています。

えにわの魅力いっぱい道の駅「花ロードえにわ」7月オープン



いよいよオープンするセンターハウスのイメージ。



秋の風物詩にもなった恵庭大橋下でのサケ遡上風景。

通過するまちからの脱却

札幌に近接し、千歳空港にもほど近い恵庭市は、その地理的な優位さゆえに「通過するまち」と表現される等、まちづくりの上で障害になっていました。えにわのまちを貫く母なる漁川は、市街中心部で国道36号と交差するように流れています。恵庭市ではJR恵庭駅と主要施設等を結ぶ歩行空間ネットワークを整備する「恵庭市交通バリアフリー」に取り組み、漁川の黄金橋から漁川橋までの河川敷はスロープ等が整備されています。床止めに魚道が完成すると、



国道36号・恵庭大橋下等に遡上したサケの群が見られるように。また、恵み野地区や漁町商店街におけるガーデニングの取り組みは、全国的に高い評価を得、ツアー客が押し寄せるほどです。

そこで、こうしたまちづくりの要素を複合的に連携させ、自立したまちづくりを行う手法として、1日3万台の車が通る国道36号と漁川が流れる南島松地区に、全国でもめずらしい「道の駅」をつくる構想が生まれました。

水と緑のやすらぎの発信へ

構想を進める上で、恵庭市は市民参加を広く呼びかけ、意見やアイデアを募集し、ワークショップを5回開催。市民の手によりまとめられた提言書は、基本計画や施設の配置計画に最大限取り入れています。

漁川の桜づつみとも一体化した建設地に、地域交流センター、ウォーターガーデン等が計画され、サケの遡上が間近に見られる観察の場など、環境教育の場としても活用されます。そして恵庭が誇るガーデニングで、四季の彩りを運びます。

一昨年9月から12月に実施した一般公募により、正式名称は「花ロードえにわ」に決定。

川遊び広場では、サケの様子を観察できる場も。年間立寄台数244,000台・年間立寄人数489,000人を目標に、拠点となる地域交流センターがいよいよ7月にオープンします。

http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/mmb/040742/040742.html

news & news

恵庭市

川と人を資源に まちづくり・川づくり協議会の 取り組み



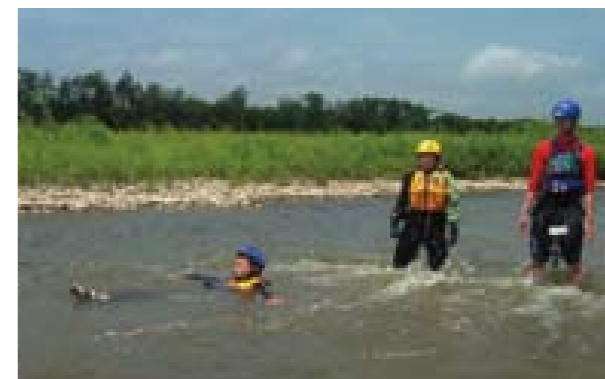
親子カヌー体験は毎回大好評！

石狩川中流からの発信
まちづくり・川づくり協議会
は、石狩川流域の河川環境を誇りに思い、大切にしながら、埋もれていた資源の川・自然・人そして知恵や技術などを活かし、住民を主体に企業と行政等が連携して、活力ある地域づくりの実現をめざすため、平成15年に発足しました。また同年、国土交通省の都市・地域整備局の直轄の全国モデル事業「多様な主体の参加と連携による活力ある地域づくりモデル事業」として、北海道で初めて採択されるなど、人づくり・川づくり・まちづくりとともに進める画期的な取り組みです。

これまで人材育成を柱に、教育・環境・交流・河川防災など多様な活動を、滝川市と住民が連携して行っています。



IRI実技訓練



IRI実技訓練 / 流れ方の練習。1度体験するとやめられない？

IRI研修プログラム

I部 テキスト講習

川とまちづくり
石狩川の姿
安全な活動
活動事例
川の図鑑
川の活動マップ

II部 実技研修

まちづくり・川づくり協議会の活動参加(1回以上)
教育: 川の体験学習活動
環境: 美化活動・緑化活動等
交流: イベントや地域づくり



修了書発行

RAC(川に学ぶ体験活動協議会)

取得資格: リーダー

CONE(自然体験活動推進協議会)

取得資格: リーダー

RESCUE3 JAPAN

取得資格: スイストウォーターレスキュー・ファーストレスポonderクラス



上記すべてが揃って
石狩川リバーインテリジェント 認定書発行
として認定する。(本協議会)

IRI人材バンク(インターネット)

IRIの紹介・斡旋・PR

IRIは、石狩川流域の川を活かしたまちづくり活動のコーディネーターとして活躍が期待される。

石狩川リバーインテリジェント認定制度
平成18年度研修会 10月頃予定

石狩川リバーインテリジェント認定制度
石狩川リバーインテリジェント認定制度は川を活かしたまちづくり活動を促し、コーディネートできる人材を育成、流域内の活動等に派遣する制度です。頭文字をとって通称IRI(アイ・アール・アイ)。実技はもちろんのこと、開拓と治水の歴史、自然環境や農業など、流域の基礎知識等を学ぶ点の特長です。今後は受講者の得意分野も取り入れていくそうで、「流域の様々な専門家」がここから生まれてきそうです。地域を限定

せず、広く呼びかけ参加できるようにインターネットを活用。興味を持っては気軽にネット上で登録できます。
昨年主催した「ミントチ祭り」(8月下旬)には市民等約1,200人が参加。こういったイベントによって指導者のスキルアップを同時に図っています。今後は、広く提案していく住民主体の組織を目指すため、活動協力者等支援者も募集しています。



体験活動に便利な「石狩川中流域りぼ」マップも制作
北海道開発局石狩川開発建設部ホームページからダウンロード
http://www.is.hkd.mlit.go.jp/

地域で石狩川を語り継ごう

北海道遺産・石狩川を語る集い

平成17年10月25日(火) / 石狩市弁天会館
11月17日(木) / 江別市市民会館
11月30日(水) / 滝川市たきかわホール

北海道遺産である石狩川について、流域の方々と川の変遷や川に関わる生活の歴史などを語り合い、地域の財産として世代に語り継ぐための意見交換を行いました。開催地は明治35年から昭和9年まで、輸送幹線として利用された「上川丸」の主要寄港地・江別市から出発し上流へ。下流から上流の流域住民の思いをつなぎ、連携が模索されるよう期待を込めました。

合田氏は、「石狩日誌」に書かれた各地域の記述部分等を説明し、馬場仁志北海道



講演「松浦武四郎の石狩日誌に見る石狩川」
合田 一道氏(歴史作家)

開発局石狩川開発建設部次長は、時代とともに移り変わった石狩川の姿を解説しました。地域のバネリスト達が石狩川の思い出等を語り出すと、満員の会場から意見が出るなど、石狩川への想いを共有する場となりました。

石狩川エコミュージアム 第2回学習会

水害仮想体験で学ぶわが町の記憶

平成18年1月6日(金) / 江別河川防災ステーション
エコミュージアムとは、地域のあるがままの姿を「生きた博物館」として、地域住民の意思と力で地域を運営していく活動です。石狩川流域でも「石狩川エコミュージアム」の形成に向けた学習会を実施しています。

今回は水害仮想体験Ⅱ洪水DIGを用い、いかにして洪水から身を守るかを考えました。江別市民や江別市役所、消防署などが参加。5〜6グループに分かれ、道路に線を引き、避難で渋滞が予想される所には×印、浸水しそうな場所を書き込み、実際の浸水予想図と見比べました。



江別市と川との関わりを説明する今先生
(北海道教育大学旭川校)

水害から生命や地域を守るためには、まず自分が住むまちの川を知ることが大切で、こういった活動も「石狩川エコミュージアム」の形成につながっていくと考えます。

河岸のまち・江別が鮮やかに蘇った 劇団「川」外輪船が着く港 再演

平成18年2月24日(金)、25日(土)、26日(日) / アートスペース外輪船(旧岡田倉庫) 江別市2条1丁目
劇団「川」 TEL.011-384-0746



当時を彷彿とさせる熱演に会場は感動に包まれた。

江別の市民劇団「川」は、昨年急逝された創設者で原作者の、春日もとい氏追悼公演として「外輪船が着く港」を再演しました。権戸帰りの女性、行商人、雑穀商人、屯田兵親子などを乗せ、出航した外輪船「えべつ丸」。月形と江別を結ぶ航路の中、権戸集治監から脱獄した囚人が乗り合わせたことからそれぞれが絡み合い、人として助け合い生きることの素晴らしさを描く群像劇。

公演場所は、実際に江別港があった旧岡田倉庫です。千歳川がすぐそばを流れ、川と人のつながりを醸した公演は、立ち見が出るほど好評のうち終了しました。

編集後記

●石狩川流域は46市町村としてスタートです。まちには歴史の中で育まれた特有の文化や風土があります。今回の「川と人」は、そういったまちの輝きに目を向けました。

●ダム湖周辺の豊かな森と水を地域振興に活かす「水源地域ビジョン」。住民の知恵や行動力といったソフトが主体となる、画期的かつ難しい取り組みです。住民が楽しみながら、まちの輝きを見つけ、形にしてほしいと思います。また、中・下流の住民は水源地の現状を知り、参加することがビジョンを一層盛り上げます。

●スムーズに運んだ若見沢市・北村・栗沢町の合併。歴史的なつながりや、買物や通院等日頃のつきあいが深かったそうです。住民の心が伴った合併。これからのまちづくりにエール！

